〒９０５－００１１　沖縄県名護市宮里４４７－２０　丸平第２アパート１０２号　TEL０９８－０５４－８５５５　Eメール　nago.kyodoc@bird.ocn.ne.jp
郵便振込口座番号０１７１０－０－１６６２２１　加入者名・新基地建設反対名護共同センター　２０２４・４・１（月）　４５０号

新基地建設反対名護共同センター　ニュース

陸自訓練場断念に党派超え市民結集 1200人余

四十三兆円の軍事予算を阻止しよう!!

「住宅地への自衛隊訓練場計画の断念を求める市民集会」が自衛隊訓練場設置計画の断念を求める会主催で三月二〇日（水）にうるま市の石川会館で開催されました。一二〇〇人超えの参加者でした。

プログラムのアトラクションでは、子どもたちのブレイクダンスで盛り上がり、それぞれの団体の挨拶が続くなか、高校生代表の小橋川仁菜さんのスピーチでは最高の盛り上がりとなりました。

憲法九条の原文を読み上げながら沖縄で進行している軍事要塞化の矛盾に、戦争放棄を掲げた九条の精神がいかに歪められ懸け離れたものかがひしひしと伝わり、一言一句の度に大きな拍手が沸き起こりました。涙した参加者も大勢いました。

訓練場予定地の旭区と東山区は一九五九年に宮森小学校に米軍のジェット戦闘機が墜落した学区内です。

住民が一致団結して声を上げれば政治的立場を超えて世論を動かす事ができる証となりました。

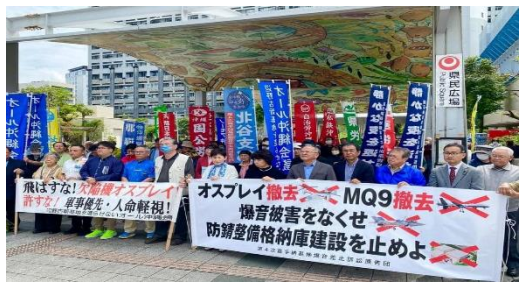
一瞬にして地獄絵図・宮森小学校ジェット戦闘機墜落事故

１９５９年6月３０日、１校時、2 校時が終わりミルク給食時間。「さあ、皆さんいただきまーす。」とコップを持ち上げて飲もうとした時でした。突然大きな爆発音、校庭にはコンクリートと鉄の破片が飛び散った。地面は揺れ、校舎はガタガタ、窓ガラスがパチパチガチャガチャと割れて飛び散っている。ガラスの破片がコップの中に入る。窓際に座っている子どもの頭や顔にガラスが飛び散る。怪我をした子どもたちが「戦争がきたー」「先生こわいよー。助けてー。」と絶叫。

何が起こったのかわからなかった。まるで火山のような黒煙が勢いよく湧き出ていた。空を焦がすほどの火柱が上がっていた。逃げまどっていると血だらけになっている先輩を見た。腰のベルトだけが残っている黒焦げにやけどした子どもが長椅子に載せられたて目の前から運ばれて行った。大人でも見るに堪えない光景は、小学生にとってはほんとにショッキングな出来事でした。忘れたい、思い出したくない出来事でした。

残酷な遺体

喜友名啓二さん、喜納常次さん、上江洲洋子さん、喜屋武玲子さん、の4人は、燃え盛る教室の火の中から飛び出してきました。「先生助けて―」「お水」と叫びながら喜屋武玲子さん以外の3人は教室の前で倒れた。4人とも全身火傷で着ている洋服は焼け真っ裸でした。子どもたちの皮膚は抱焼け爛れて、先生がだき上げるとその皮膚が手や洋服にくっつく程の醜い火傷でした。喜納常次さんは中央病院まで搬送されましたが助かりませんでした。



座り込みは非暴力のたたかい　青年・学生沖縄ツアー

三月九日に東京都の品川と大田の学生・青年を中心にした沖縄ツアーのみなさん十四人が名護共同センターを訪れました。一行は前日嘉手納基地や辺野古ゲート前を見学し、名護市安和と本部町塩川の闘いをしている西浦昭英さんのお話や、元名護市長の稲嶺進さんのお話を聞きました。

名護共同センターでは、辺野古のたたかいの歴史を具志堅徹さんに話していただきました。　感想をご紹介します。

○十三人から始まった闘いが「オール沖縄」で国政選挙で勝つほどの力になったのは本当にすごい。本当は本土の人も含めて考えるべきことだと改めて思う。オールジャパンで取り組みを考えることが今こそ、必要だと思いました。ネットでは座り込みに意味があるかといわれるが、非暴力は誰でもできるという意思表示として大切だと思いました。

○反対運動は十三人から始まったという話が印象的で、無理のない範囲で継続的にやっていくことが重要。小さい運動でも続けていればいつしか注目される時がくると思うし、連帯の輪が広がっていく。沖縄が裁判で敗訴し続けても、そこでたたかいを諦めてしまっては国が望んだ通りになってしまうので、「明るく不屈に」行うことが勝利への道を開くのを感じた。これは本土の人たちの問題であり、傍観者になることで自分自身の将来を苦しめることになるという事実を知らなければいけないと思いました。

○粘り強くたたかいを継続されていることに、すごいと思いました。たたかいを継続する思い、怒りのそこ深さと集団化、継続化を組織化していく運動の方法論に感銘を受けました。また、人類の歴史から見れば、今のたたかいも一瞬というお話は本当に広い視点で、過去から未来まで考えることの大切さ、そこから身につく「楽天主義」の強さを実感しました。